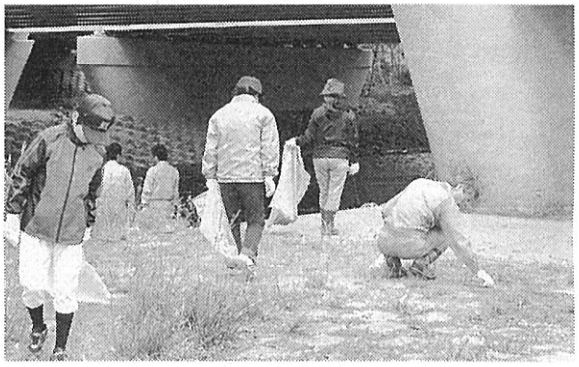
平成26年6月7日（土）
厚別川河川清掃事業

北海道建設新聞掲載

81人で河川敷きれいに

白石厚別建協 厚別川清掃活動



ごみを拾う参加者

白石厚別建設協会（武藤征一会長）は7日、厚別川の清掃活動に取り組んだ。会員のほか、地域の町内会や少年野球チームなどからも参加があり、総勢81人で河川敷をきれいにした。

同協会の設立35周年を記念して2006年から実施し、ことしで9回目。白石区災害防止協力会（山下公一会長）、厚別区災害防止協力会（丸山邦彦会長）との共催となる。

今回は、12号の厚別橋、南郷通の大谷地橋、274号と道央自動車道の高架橋付近を清掃。会員24社から参加した36人は、ほかの7団体45人とともに、手分けしてごみを拾い集めた。コンクリートの破片、大型家電なども落ちていたが、参加者は「例年と比較してごみは少なかった」という。

白石厚別建協の武藤会長は「建設業界の奉仕活動として、これからも継続していきたい」と話した。

皆の川をきれいに

白石厚別建設協会と地域住民が厚別川のごみ拾いを行う

川原の草地の中まで入ってきれいにしました

白石厚別建設協会が先月7日、厚別川沿いを清掃しました。

同協会は今年で発足43年目。平成18年に札幌白石建設協会35周年の節目に「白石厚別建設協会」と改称し、記念事業として白石区と厚別区の間を流れる厚別川の清掃事業を開始したのがきっかけで、今回の清掃は8回目を数えます。

当日は同協会に登録している事業所のほか、近隣企業や町内会、少年野球チームなどから約80人が参加。同協会会長でムトウ建設工業㈱の武藤征一代表取締役が「皆さんで一丸となり、地域をきれいにしましょう」とあいさつした後、厚別川沿いの歩道を歩きながら、落ちている空き缶や吸いがらなどのごみを拾い集めました。

参加者の一人は「前回ほどごみは多くなくて、いい傾向ですね」と話していました。（高）

北海道新聞　厚別区限定紙【れじおん】掲載